

国労気仙沼地域分会
2011年3月25日(金)
No. 109



全組合員が協力し組織拡大強化と
労働条件の維持改善を勝ち取ろう
発行責任者 熊谷泰幸
編集責任者 分会教宣部



分会として大きな痛手!!!

副会長・熊谷秀三さん犠牲に！

最後の記念撮影は今年の旗開きでした



いつも執行委員会の日程調整に、そして気仙沼地方労の連絡員、常に縁の下の力持ちとして、そして共済担当として組合員のために頑張ってきた秀三さん。通信手段の絶たれた11日以降も生きていれば必ず私の家に歩いてでも来ると信じていましたが、20日正午頃お兄さんたちと奥さんによって、秀三さんの身元が確認されました。現在は自宅に安置されています。

身元が確認された翌日、遅ればせながら秀三さんに会って来ました。予想される避難所の市民会館から約200メートル離れた郵便局付近

で発見されたと奥さんから聞きました。顔は多少どこかにぶついたらしく黒いところもありましたが、綺麗でした。火葬は、27日9時から千厩火葬場にて執り行います。秀三さん、たくさんの教訓、たくさんの思い出をありがとうございます。

横行する窃盗・車上荒らし！

人の不幸を良い事に被災地では、被災した車からガソリンを抜いたり、車上荒らしや自転車の窃盗などが起きている。

隣の気仙沼市では、銀行の金庫室から4千万円が盗まれるなど多発している。

わが町も、まだ電気が通っていない時期に、津波をかぶった何軒かの家の周りをうろついた足跡があると、地区の区長に言われた。

不審な車としては、神戸

ナンバーのキャンピングカー、神奈川ナンバーの車など、一時期は3人組のボールを持った輩が出没との噂もあり、電気が通っていない間は、余震の心配もあり、おちおち寝ても居られない状態で、3人で茶の間で横になっていた。

わが家に出来る事は『避難所に迷惑をかけないで自活生活をする事』という気持ちで自宅に居る。

ひとつだけ今の希望は、未入浴期間の解消だ。

掲 示 板

何もかもが無くなった陸前高田市の市街地/高田一中より撮影



秀三さんの命を奪った大津波は、市民の大事な生活基盤の職場や家族、他全ての物を奪った。噂では、20メートルを越す波が防波堤を越え一気に市街地を襲ったという。

支社内でもまだ1名の消息が不明と聞いている。社員の家族・親戚まで入れると、一体何人が犠牲になったのか計り知れない。

陸前高田市は、市職員の3分の1がまだ行方不明と聞く。また市長を初め市職員も被災者だ。それでも頑張っている姿を見ると、頭が下がる。

みんなでこの難局を乗り越えるべく、頑張っていこう。亡くなられた方々のご冥福を祈ります。